

## 「第69回日本放送協会放送文化賞」の贈呈について

「第69回（平成29年度）日本放送協会放送文化賞」は、次の方々に贈呈することに決定しました。 <五十音順>

いとう すずむ  
**伊東 晋** 氏 / 東京理科大学 教授

えがみ えいこ  
**江上 栄子** 氏 / 料理研究家

おわだ てつお  
**小和田 哲男** 氏 / 静岡大学 名誉教授

しみず まさし  
**清水 優史** 氏 / 東京工業大学 名誉教授

しょうふくてい つるべ  
**笑福亭 鶴瓶** 氏 / 落語家

まつもと はくおう  
**松本 白鸚** 氏 / 歌舞伎俳優

やまなか しんや  
**山中 伸弥** 氏 / 京都大学 iPS 細胞研究所 所長

この賞は、昭和24年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、これまでの受賞者は今回の7人をあわせて450人となります。

受賞者の選考は、NHK副会長が委員長を務め、池端俊策氏（脚本家）、今井秀樹氏（東京大学名誉教授）、大石芳野氏（フォトジャーナリスト）、鳥飼玖美子氏（立教大学名誉教授）、二木謙一氏（國學院大學名誉教授）、吉岡幸雄氏（染織史家）と、NHKの理事5人の計12人を委員とする選考委員会で行われ、決定しました。

贈呈式は、3月16日（金）の「第93回放送記念日記念式典」で実施する予定です。また、受賞者には佐藤忠良氏製作のブロンズ像「ふたば」と副賞を贈呈します。

## 第69回日本放送協会放送文化賞・受賞者資料

いとう すずむ  
伊東 晋 氏（64） 《東京理科大学 教授》



長年にわたり映像符号化研究の第一人者として、ケーブルテレビ方式の技術開発や、デジタル放送およびスーパーハイビジョン放送を実現する放送方式の策定に取り組み、放送の新たな時代を切り開く技術開発を先導しました。また、NHKの放送技術審議会委員長、放送技術研究所の放送技術研究委員会委員長などを歴任し、放送技術の発展に寄与しています。

えがみ えいこ  
江上 栄子 氏（82） 《料理研究家》



番組開始60年を迎えた「きょうの料理」の講師として、30年以上にわたりNHKの料理番組に出演。「きょうの料理」草創期の人気講師・江上トミ氏の志を受け継ぎ、「食を通じて幸せ作りのお手伝い」をモットーに、日本のおふくろの味から世界の家庭料理まで多彩なレシピを伝えています。長女の江上佳奈美氏も「きょうの料理」に出演し、番組60年を3代にわたって支え、昭和から平成の現在にいたるまで放送文化の発展に寄与しています。

おわだ てつお  
小和田 哲男 氏（74） 《静岡大学 名誉教授》



今年度は大河ドラマ「おんな城主 直虎」の時代考証を担当。戦国史の第一人者として長年NHK歴史番組への出演や大河ドラマ考証を担当しながら、各種展覧会の監修やイベント出演、セミナー講師を務めるなど、大河ドラマ、歴史番組への関心を大きく高めました。とりわけ故郷・静岡への愛着は深く、NHK静岡放送局の番組において「直虎コーナー」に定期的に出演し地域の文化・魅力を発信。地域放送を含め、幅広く放送文化の発展に寄与しています。

しみず まさし  
清水 優史 氏 (74) 《東京工業大学 名誉教授》



NHK が創設し30年を迎えた「ロボットコンテスト」において草創期から関わり、現在も競技専門委員や審査員として、アジア・太平洋28の国・地域が参加するまでになったロボコンの発展を支えました。発想力・独創性を引き出す魅力的な競技課題の設定で、「モノづくり」を担う若者たちの教育と技術力の伸長に寄与するとともに、アジア・太平洋各国における技術者の育成 = 「人づくり」に対する貢献が高く評価されるなど、公共放送の意義を高めています。

しょうふくてい つるべ  
笑福亭 鶴瓶 氏 (66) 《落語家》



「鶴瓶の家族に乾杯」が番組開始から20年を超える長寿番組になりました。落語家としてのみならず、司会・俳優と多方面で活躍。俳優としての評価も高く、連続テレビ小説「純ちゃんの応援歌」「あさが来た」などに出演のほか、大河ドラマ「西郷どん」にも出演予定。昭和58年「YOU」以来、相手の本音を引き出す独特の話術は一貫し、「鶴瓶の家族に乾杯」により、幅広い世代で楽しめるエンターテインメント番組の可能性を広げ、放送文化の発展に寄与しています。

まつもと はくおう  
松本 白鸚 氏 (75) 《歌舞伎俳優》



現代歌舞伎を代表する立役の一人。『勸進帳』の弁慶をはじめとする数々の当たり役において300年におよぶ高麗屋の芸を継承。現代劇でも、ニューヨークで『ラ・マンチャの男』、ロンドンで『王様と私』に主演、ミュージカルの舞台上で大きな足跡を刻んでいます。NHKの古典芸能番組やドラマへも数多く出演、大河ドラマ「黄金の日日」「山河燃ゆ」と二度にわたって主役を演じるなど、常に卓越した演技力で視聴者を魅了し、日本の伝統芸能および放送文化の発展に寄与しています。

やまなか しんや  
山中 伸弥 氏 (55) 《京都大学 iPS 細胞研究所 所長》



日本の医学界を代表する研究者のひとり。長年にわたりニュースやクローズアップ現代など数多くの番組に専門家としてゲスト出演し、NHKの科学報道、科学番組への関心を高めるとともに、今年度はNHKスペシャル「シリーズ 人体」で司会にも初挑戦。「医学と科学の素晴らしさを伝えたい」という一貫した姿勢のもと、難しいと思われがちな最先端科学の世界を平易な言葉で解説してその普及につとめ、放送文化の発展に寄与しています。